



養蜂家
はちま
(合同会社八八 代表)

まるやま ちはる
丸山 千晴さん



丸山さんは、大学を卒業してすぐの2020年に、個人事業主として大網白里市で「はちま八八」を創業し、2023年には法人化、「合同会社八八」を設立しました。更に女性養蜂家として、新聞やテレビなどから取材を受けています。また、耕作放棄地に蜜源植物を植えるといった地域貢献活動も行っており、千葉県でおいしい蜂蜜をつくりたいと奮闘する丸山さんの養蜂にかける思いをお届けします。

——養蜂をはじめたきっかけは？

凄い偶然なんですけれど、母が道の駅めぐりが好きで、道の駅で売っている蜂蜜を見つけて、後に「師匠」になる生産者の方と出会ったんです。その生産者の方から、数日以内に連絡をくれたら、蜂をあげるけど、連絡がなければそのまま、という話で。それで、翌日に電話したら、その翌日には蜂が来た、みたいな感じです。大学3年の時のこの事がきっかけで養蜂をはじめました。



——養蜂のやりがいとは

ミツバチがすごくかわいい、これが一番大きいです。働きバチはみんなメスなんですけれど、皆よく働くので見てると自分も働かなきゃと思えてきます。大きいスズメバチと比べると本当にかわいいんです。

蜂蜜をとったときに泣いてしまうぐらいの達成感がありますね。あんな小さな生き物から何十キロも蜂蜜がとれるんだと、いつも感動します。

——耕作放棄地の緑化について

耕作放棄地の情報は、農業委員さんや、仲良くなった農家さんとか、農地中間管理機構の方から教えてもらったりして。今は3千平米ぐらいの耕作放棄地をお借りして、蜜源植物を植えています。

クサフジとか、今はちょうどクローバーを植えています。クサフジはレンゲの仲間、枯れた後にすき込むと良い肥料になるんです。

——女子高の影響について

千葉女子高校出身なんですけれど、高校がすごく楽しくて、いろんな影響を受けましたね。

男性がいないからか、みんなのびのびしていて、その影響をすごく受けました。今までの人生で、女子高の子たちが、一番個性が強かったです。先生も「出過ぎた杭は打たれないよね」と言ってくれまして、養蜂をやっていく中で、すごく心に残っています。

——千葉県や大網白里の地域特性とは？

長野や北海道の方が養蜂をやるには良いとは言われています。でも、私は千葉県で養蜂をやるにも良いところがあると思っていて、千葉県は「千の葉っぱ」と書きますが、本当にたくさんの種類の花の蜜がとれて、百花蜜だともおいしいものがとれるんじゃないかと。おいしいものが少ないけれど多種とれるイメージです。

また、大網白里は東西に長いので、山でとれる蜜と浜でとれる蜜は同じ日でとれる蜜でも全然味が違うことがあります。

わりと皆さん気づかないところで良い木があるんですよ。



——就農の苦労について

巣板一枚で3キロ以上あるので、とにかく巣箱が重いですね。加えて、防護服で全身包まないといけないのでとにかく暑い。夏場は、毎日2リットル以上水分をとっています。

結構苦労は多いんですけど、蜂が死んでしまったときはつらいですね。思い返してみると、いろいろ思い当たるところがあったりして、蜂からのメッセージが、死として表れてしまいます。

やっぱり蜂は敵が多いので、最初の頃は、外敵にやられてしまったのも自分の責任だと考えてしまって。特にスズメバチにやられた時は、巣の前に死体が山になっているのが辛かったです。



セイヨウミツバチ



——経営の苦労について

うちが成功しているかは、ちょっとわからないんですけど、やっぱり、まず家族の助けは結構最初ありました。

就職が内定していたのを辞退して養蜂をすることにしたので、最初は反対されて、「え！？内定辞退！？」という反応だったんですけど、やっててお客さんと交流していくと、家族の方もがんばれという感じになってくれて、知恵の面でも、知識の面でも、資金の面でも、本当に家族に助けられたと思っています。

お恥ずかしい話ですが、私は、大学卒業後すぐに養蜂を始めたので、営業をやったことがなくて、作るのはわかるんですけど、売るのはさっぱりわからなくて、苦労しました。

最初は、私がバイトしていたパン屋さんの軒先で売らせてもらって、そこから興味を持った市役所の方にふるさと納税に入れて貰い、更に出店のマルシェにいったらとか勧めて貰いまして、たくさんの方に助けて貰いました。

そういうところはすごく幸運でした。

——経営が軌道にのりはじめた時期

始めて3、4年目ぐらいから一気に知名度

が上がりはじめ、取材などで紹介していただきました。

取引先のお店の数もその頃から増えて、諦めず営業を続けていたら一気に来たような感じです。石の上にも3年じゃないですけど、そういうものもあるのかなと、感じましたね。

——将来の展望

蜂をいっぱい増やしたいですね。蜂が増えることが私の喜びでもあるので。

加えて、自分が女性ということもあるので、女性でも収益性がある改革をしたいです。重さがネックになる巣箱を軽くするとか、そんな工夫で女性でも養蜂に携わりやすくしたいですね。

また、今のやり方だと、蜂蜜をとる際に煙を使うのですが、将来妊娠した時には煙が使えないので、煙を使わないやり方を確立して、女性でも養蜂をやりやすくしたいです。

養蜂に限らないのですけど、もっと農業をやりたいと思っています。蜜源になるブルーベリーやゆずのような、養蜂とマッチしやすい果実もやってみたくて、そういった農業にも活動を広げていきたいです。



燻煙機を扱う丸山さん

——読者へのアドバイス

自分のやりたいことや問題視していることがあれば、それをとことん突き詰めるべきですね。

高校の先生から、どうせなるなら出過ぎた杭になれと言われてまして、やっぱり突き詰めると、面白がったり、助けてくれたりする人が現れるので、ぶれないけれどしなやかな心、そういうのがあるとすごく良いですね。

合同会社 はち八



ホームページ